

報道関係各位

2017年2月13日
成城大学

成城学園創立100周年・大学院文学研究科創設50周年記念

国際シンポジウム(入場無料・事前申込不要)

「映画と美術(アート)が出会うとき」

**-成城大学・パリ第1大学・パリ第8大学のアートと映画の研究において
第一級の研究者による国際シンポジウム-**

日程：2017年3月11日(土) 10:00~17:30 / 会場：成城大学

成城大学(東京都世田谷区 学長:戸部 順一)は、成城学園創立100周年・大学院文学研究科創設50周年を記念して、国際シンポジウム「映画と美術(アート)が出会うとき」を2017年3月11日(土)10時より成城大学3号館311教室にて開催いたします。

今回は、「映画」と「アート」の関係をテーマに、成城大学客員教授ドミニク・シャトー(パリ第1大学名誉教授)氏をはじめ、成城大学・パリ第1大学・パリ第8大学のアートと映画の研究において、第一級の研究者をお迎えした国際シンポジウムです。

いかに映画はアートの定義に関係するのか、いかにアートは映画の展開に関係するのか、映画とアートが連携するとき、いかに映画とアートの現在に新展望を切り開けるのか・・・。三部構成で行います。

《国際シンポジウム「映画と美術(アート)が出会うとき」内容》

第一部「アートから映画へ」(10:00-12:30)

- ①「アメリカの娯楽のヨーロッパの芸術に対する勝利／その包摂:『巴里のアメリカ人』(ヴィンセント・ミネリ、1951)の場合」
木村建哉(成城大学准教授)
- ②「映画はアートと文学を基にして — エリック・ロメール『パリでランデブー』第一話から」
小河原あや(成城大学講師)
- ③「ソフィ・カルの映像作品 — 自己の苦痛へのまなざし」
松本良輔(成城大学大学院文学研究科博士課程後期)
- ④「実写とアニメの狭間で — 佐藤雅晴のアンフラマンズ」
北山研二(成城大学教授)

第二部「映画からアートへ」(14:00-16:30)

- ①「動きとスクリーンの出会い」
フランソワ・スラージュ(パリ第8大学教授)
- ②「アニェス・ヴァルダの『アニェスの浜辺』の冒頭 — 自画像としてのインスタレーション」
ジョゼ・ムール(パリ第1大学教授)
- ③「映画的なものの演出」
ジャント・ラジェイラ(パリ第1大学教授)
- ④「映画におけるアートのなもの」
— デヴィッド・フィンチャー『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』を例にして
ドミニク・シャトー(成城大学客員教授・パリ第1大学名誉教授)

第三部(16:40-17:30)

討論会



《 開催概要 》

【日 時】：2017年3月11日（土）10:00～17:30

【場 所】：成城大学3号館 311教室

【対 象】：どなたでもご参加いただけます

（申し込み不要）

【使用言語】：フランス語または英語

※ただしすべての発表には日本語訳が映写されます。

【問い合わせ先】：成城大学文芸学部共用研究室 03-3482-9412 bungei55@seijo.jp

《 ドミニク・シャトー客員教授の紹介 》

文学研究科では、2016年9月28日から2017年3月28日まで、ドミニク・シャトー、パリ第1 / パンテオン・ソルボンヌ大学名誉教授を客員教授として招聘しました。ドミニク・シャトー先生は、8月31日まで同大学の現役の教授として、美学・映画学・研究方法論を教えていました。現在、ヨーロッパ文化専攻で同様のテーマで授業をいただいています。その他、シュルレアリスムの美学、ボードレールとモダン・アート、文学と映画、印象派の美学などについて講演しながら研究交流を深めています。

